

2024年度ディプロマポリシーに関連した能力に関するループリック調査 (自己評価アンケート)

対象：現代ビジネス学科2年次（2023年度入学者の内、卒業要件を満たした学生76名）

アンケート実施期間：入学時 2023年4月・卒業時 2024年12月

卒業時回答率：99%（75名/76名）

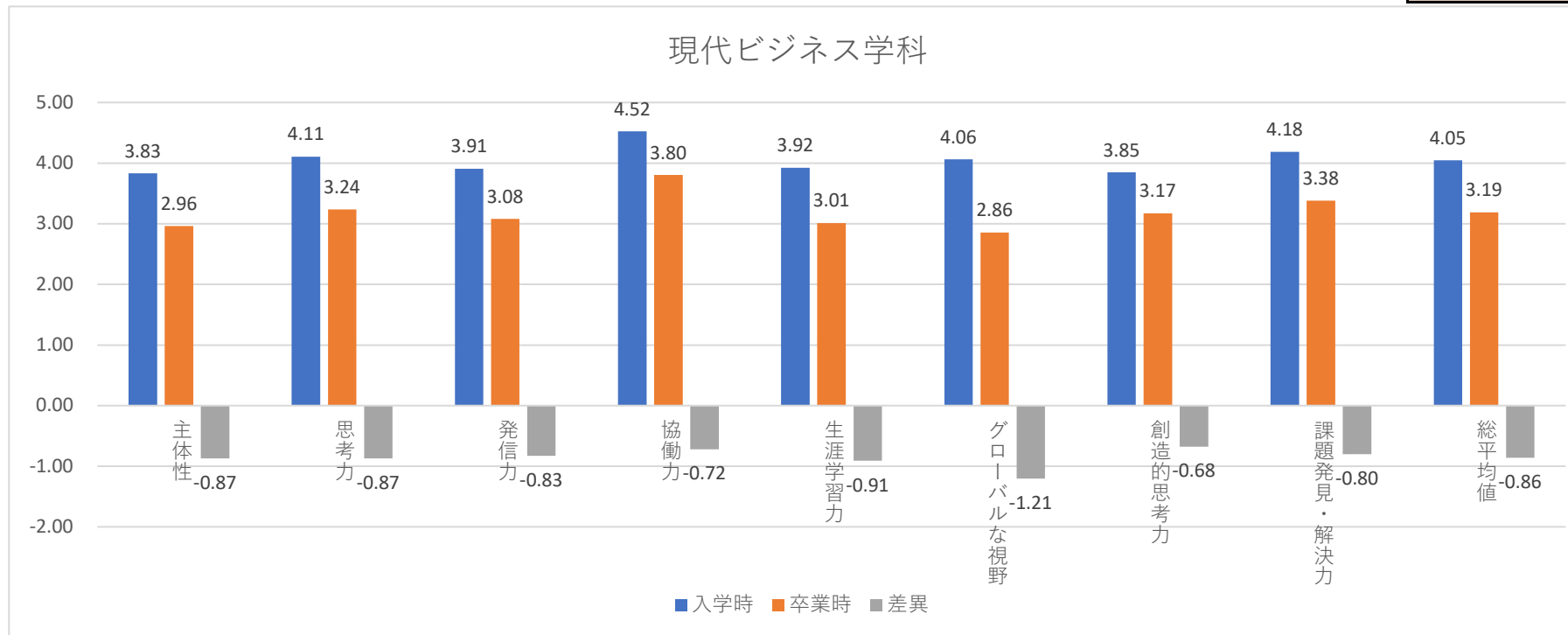
現代ビジネス学科全体

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.83	4.11	3.91	4.52	3.92	4.06	3.85	4.18	4.05
卒業時	2.96	3.24	3.08	3.80	3.01	2.86	3.17	3.38	3.19
差異	-0.87	-0.87	-0.83	-0.72	-0.91	-1.21	-0.68	-0.80	-0.86

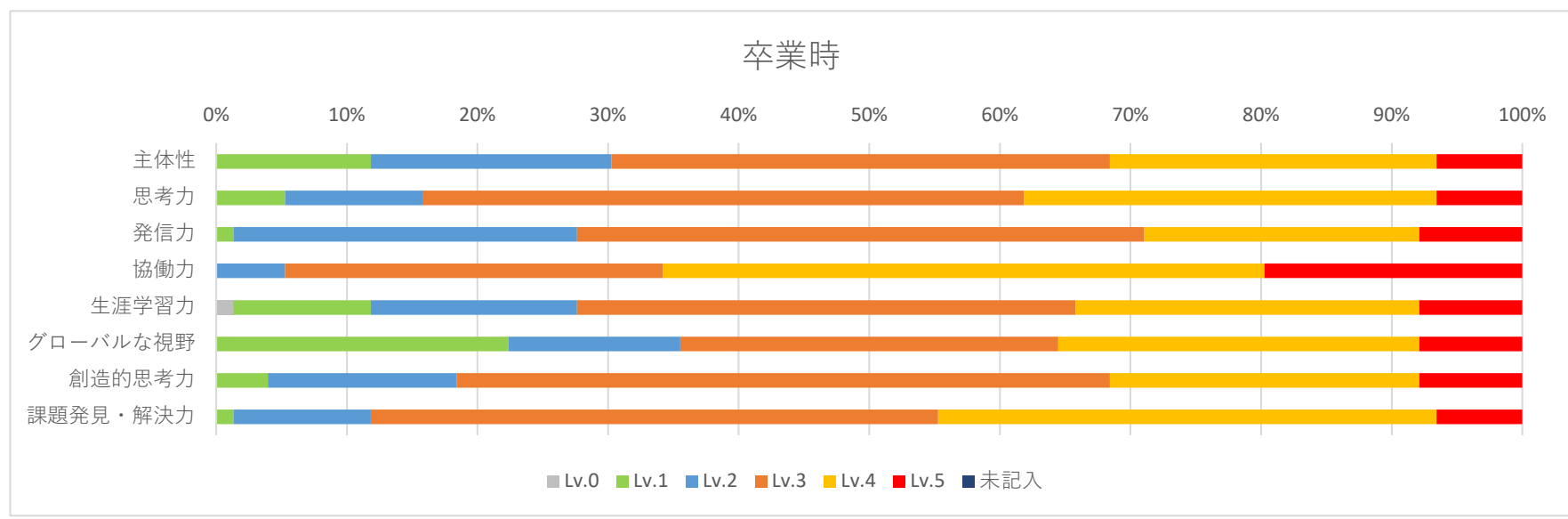
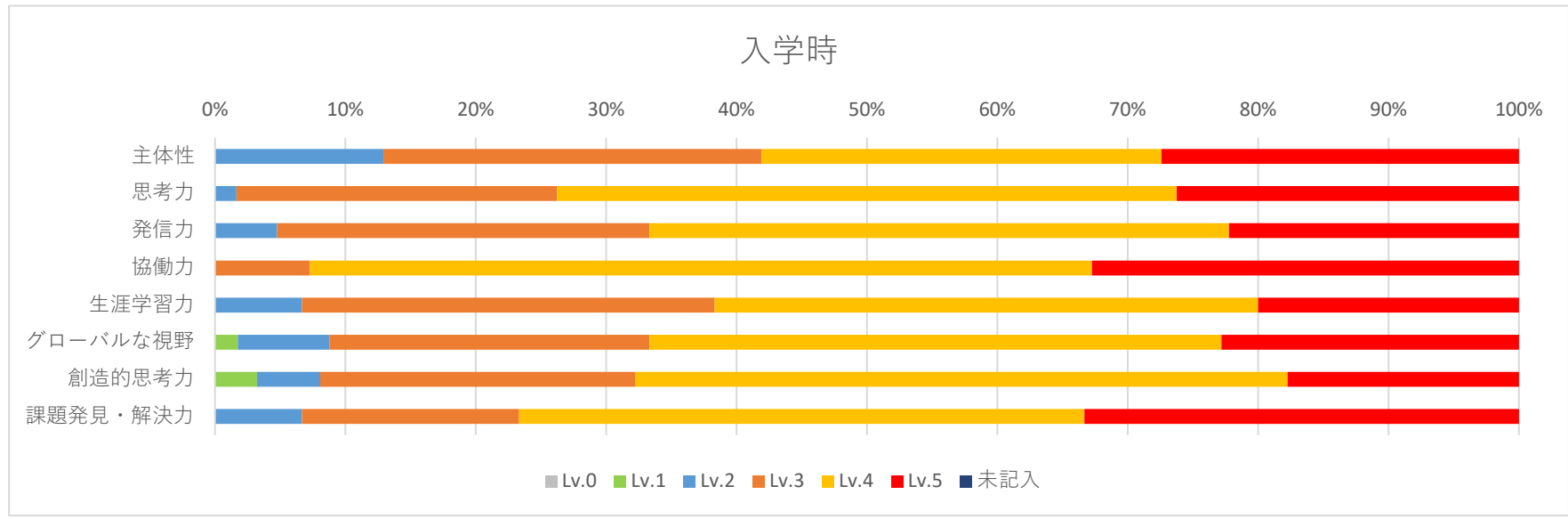
過去3年間の総平均値

入学時	2.32
卒業時	2.83

〈グラフ1〉



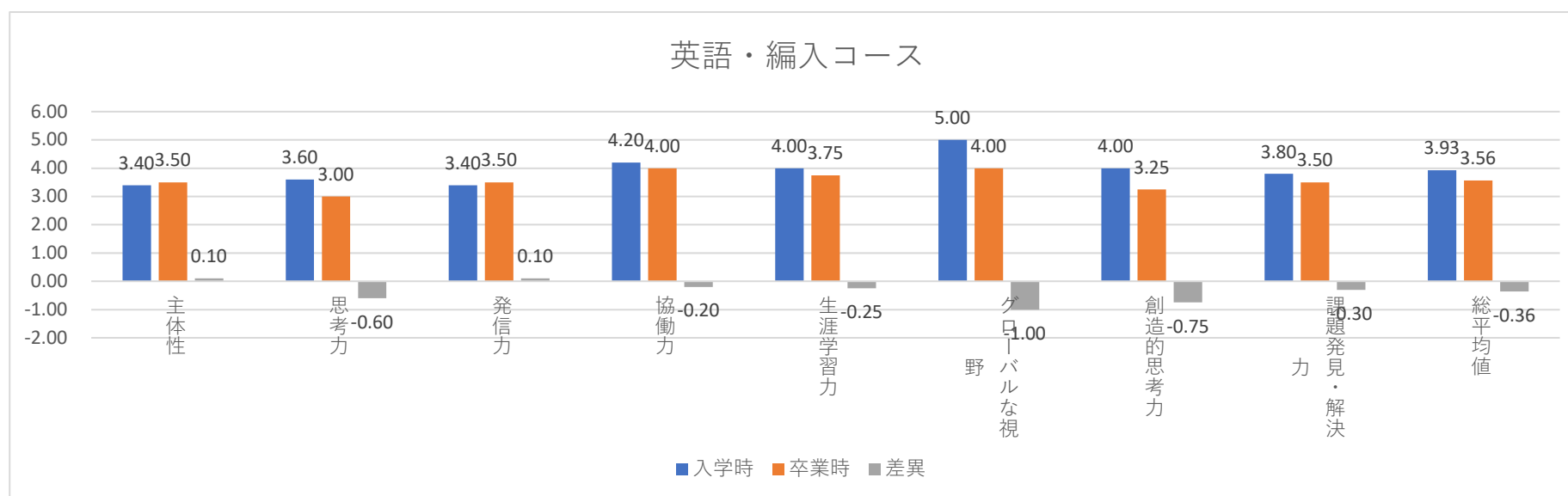
〈グラフ2〉 割合比較 ビジネス学科全体（暖色系はレベル3～5、寒色系はレベル0～2）



〈グラフ3〉 英語・編入コース

英語・編入コース

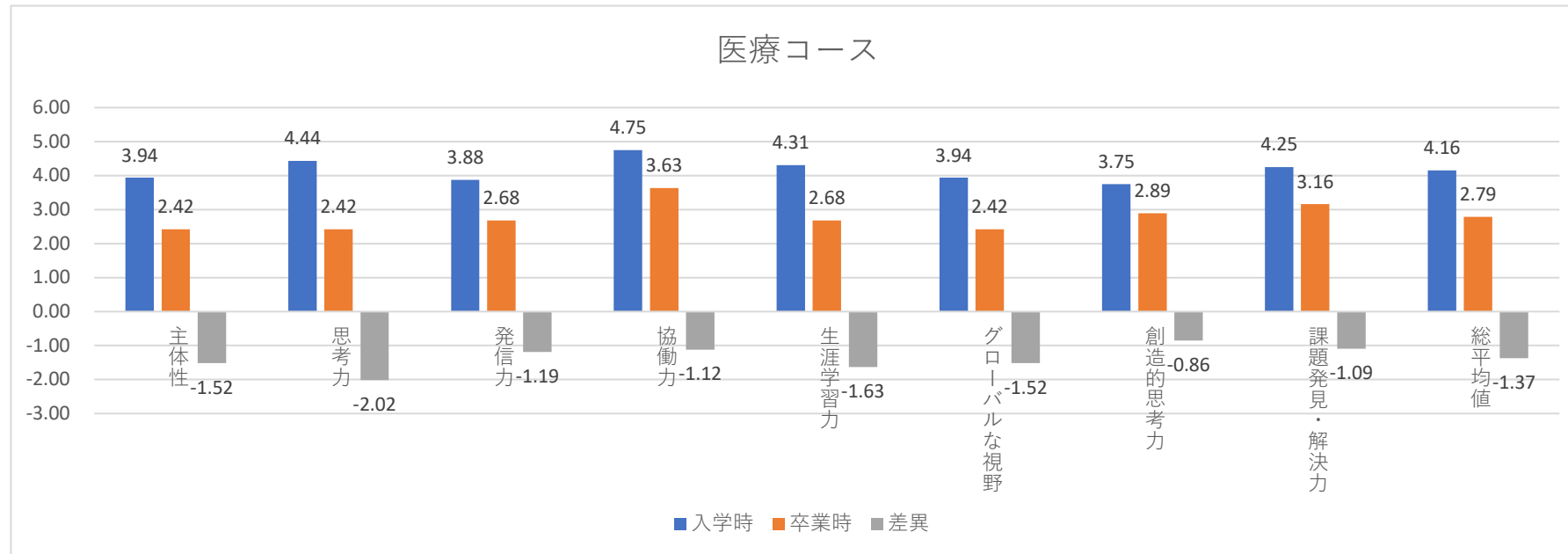
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.40	3.60	3.40	4.20	4.00	5.00	4.00	3.80	3.93
卒業時	3.50	3.00	3.50	4.00	3.75	4.00	3.25	3.50	3.56
差異	0.10	-0.60	0.10	-0.20	-0.25	-1.00	-0.75	-0.30	-0.36



〈グラフ4〉 医療コース

医療コース

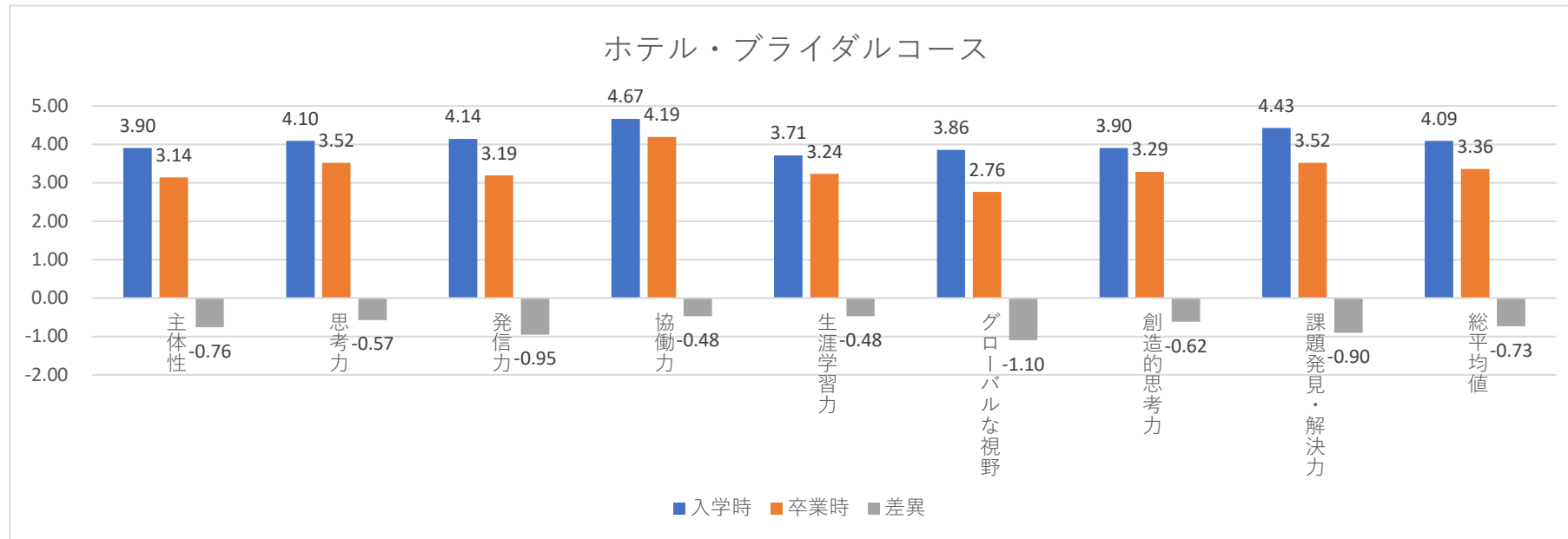
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.94	4.44	3.88	4.75	4.31	3.94	3.75	4.25	4.16
卒業時	2.42	2.42	2.68	3.63	2.68	2.42	2.89	3.16	2.79
差異	-1.52	-2.02	-1.19	-1.12	-1.63	-1.52	-0.86	-1.09	-1.37



〈グラフ5〉 ホテル・ブライダルコース

ホテル・ブライダルコース

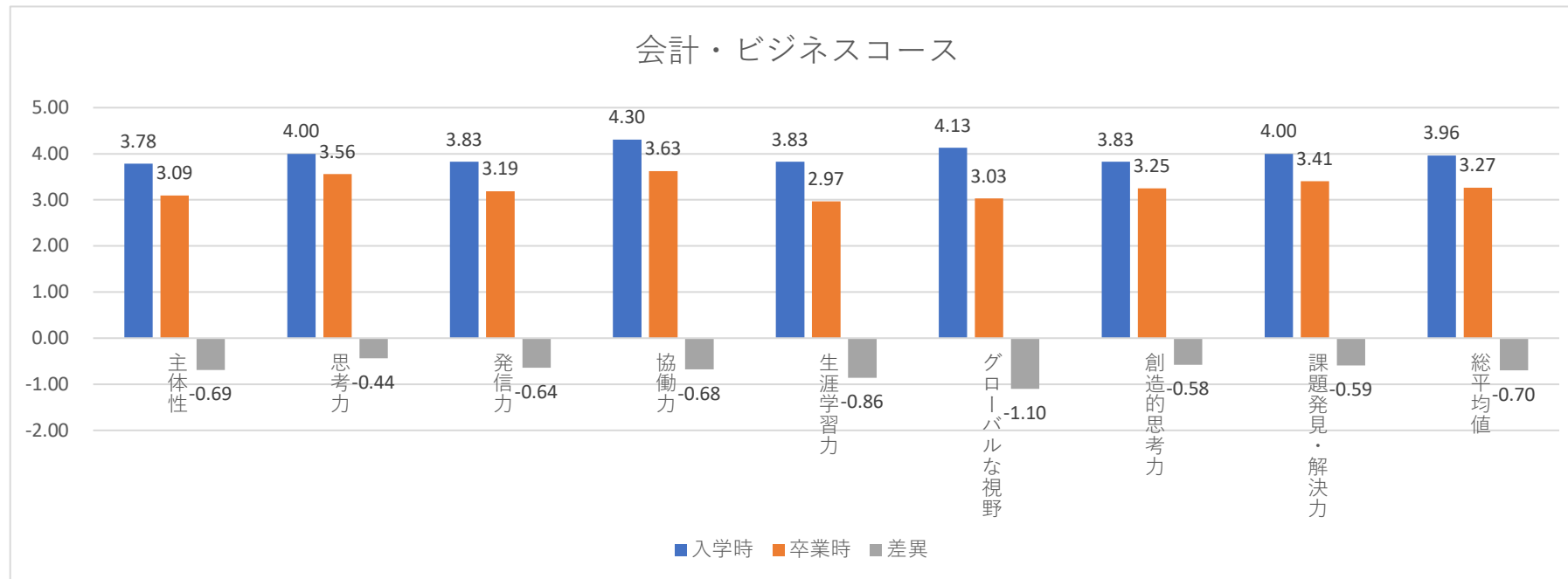
全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.90	4.10	4.14	4.67	3.71	3.86	3.90	4.43	4.09
卒業時	3.14	3.52	3.19	4.19	3.24	2.76	3.29	3.52	3.36
差異	-0.76	-0.57	-0.95	-0.48	-0.48	-1.10	-0.62	-0.90	-0.73



〈グラフ6〉 会計・ビジネスコース

会計・ビジネスコース

全体	主体性	思考力	発信力	協働力	生涯学習力	グローバルな視野	創造的思考力	課題発見・解決力	総平均値
入学時	3.78	4.00	3.83	4.30	3.83	4.13	3.83	4.00	3.96
卒業時	3.09	3.56	3.19	3.63	2.97	3.03	3.25	3.41	3.27
差異	-0.69	-0.44	-0.64	-0.68	-0.86	-1.10	-0.58	-0.59	-0.70



《所見》

本調査では、短期大学部2年生（卒業許可者）を対象に、入学時と卒業時のディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に関連する能力や知識の変化を分析した。本調査は、ルーブリックの形式で学生自身が自己評価した結果をもとに行われており、各能力の成長度合いを学生の主観的な視点から測定している。

2023年度入学生は、入学時と卒業時を比較すると、すべての評価項目においてスコアが低下している。総平均値は 4.05 → 3.19 (-0.86) と大きく下降し、すべての項目で -0.68~-1.21 の範囲で低下している。特に「グローバルな視野」 (-1.21)、「思考力」 (-0.87)、「主体性」 (-0.87) などの落ち込みが顕著である。

本分析は2019年度より継続しているが、すべての項目でスコアが下降したのは本年度が初めてである。この要因として、2022年度のポートフォリオ導入に伴い、入学時に実施していた本調査を1年次前期終了時点に変更したことが考えられる。過去3年間の入学時の総平均値が 2.32 であったのに対し、本年度は 4.05 と 1.73ポイントの上昇が見られる。これは、1年次前期の授業がゼミを中心に自己効力感を高める内容となっており、前期終了時点で自己効力感が最大限に実感された可能性があるためと考えられる。一方で、1年次後期以降は、実践・実技型のアクティブラーニングが増え、よりチャレンジングな学修環境となる中で、学生が自分の実力をより客観的に評価するようになった（メタ認知能力の向上）結果、自己評価が低くなった可能性もある。なお、過去3年間の卒業時の総平均値が 2.83 であったのに対し、本年度は 3.19 であり、特に大きな低下が見られたわけではない。このことから、スコアの下降は単なる能力の低下ではなく、評価基準の変化による影響も大きいと考えられる。

数値が低下してしまったということは、学生が成長実感をあまり感じていない、と捉えることも出来る。今後は、ゼミを中心に面談時にポートフォリオやPROG等を活用して、いかに成長を認知させ、実感を与えられるかが課題である。併せてフィードバックによる認知や言語化による能力の深化も促進していく必要がある。